

JACET Kansai Newsletter

No. 103 December 15, 2025

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 石川慎一郎 (神戸大学) (Chapter President: Shin'ichiro ISHIKAWA, Kobe University)

事務局: 〒612-8577 京都府京都市伏見区深草塚本町 67

龍谷大学経営学部 山岡華菜子研究室 山岡華菜子

(Chapter Office: c/o Kanako Yamaoka, Faculty of Business Administration, Ryukoku University, 67 Tsukamoto-cho, Fukakusa, Fushimi-ward, Kyoto city, Kyoto 612-8577)

URL: <http://www.jacet-kansai.org/> (関西支部へは左の URL からご連絡ください)

■巻頭言■

(石川慎一郎・支部長)

早いもので、6月に関西支部長に就任してほぼ半年が過ぎました。2年の任期で行いたいと考えていたのは、支部の「研究活動の活性化」と「運営の持続可能性の向上」です。就任後、会員各位、また、役員や執行部の皆様のご指導やご協力を得つつ、いくつかの改革を試行しております。今回は、この場をお借りして、3つ、ご報告させていただきます。

(1) 関西支部研究交流会 (REP) を創設しました。

関西支部は、昔は春秋の2回、支部大会を開催していましたが、現在は、年度末の1回開催のみとなっています。教員多忙化の中で無理からぬことではありますが、支部会員にとってみれば研究成果の発表の場が減っているわけで、新たに、気軽な研究発表の場として、オンラインで「REP」を始めました。

中間報告でも OK、既発表内容でも OK、ワークショップでも OK、ツール紹介や文献紹介も OK、というコンセプトです。肩ひじ張らず、会員同士が普段やっていることを気軽に発表して、意見交換で互いに学び合う、そんな場になっていけばと願っています。

もっとも、こうしたイベントは始めるのは簡単でも、続けるほうが大変かもしれません。勤務先でも brown bag meeting のようなイベントを何度かやったことがありますが、採点や学生対応に追われる中、昼休みに集まること自体が難しくなり、長くは続きませんでした。この意味で、物理的に人が移動しないでよいオンラインという形態はメリットを持つかもしれません。

今年度最後となる次回の REP は2月21日(土)、申込期限は1月21日(水)です。ぜひふるってのお申し込みを。詳細は <https://tinyurl.com/2786oa79>

(2) 関西支部大会の活性化を図りました。

かつての関西支部大会は発表の申し込み件数も多く、私が事務局の仕事をしていた20年前ぐらいですと、春秋2回あわせて30本近い発表や企画がありま

した。関西支部では、長くそのような状況が続き、コロナ禍でも工夫して多くの発表を集めていましたが、コロナが収束して対面に戻ってからはかつてのような数が集まらなくなっていました。私もそうですが、一度オンラインを経験してしまうと、出不精になりがちで、対面イベントでの発表件数の減少は多くの学会で問題になっていると聞きます。

こうした状況の中、支部大会の再活性化を図るべく、次回の大会より、(1)研究発表種別を大幅に拡大し、(2)学生発表賞を新設して若手発表を奨励することとしました。研究企画委員を中心に発表応募の呼びかけを強化していただいた結果、2026年3月7日に大阪成蹊大学で開催される本年度の支部大会は、過去20年間で最大規模のものになる見込みです。英語教育・応用言語学分野の30本近い研究を一日で一つの場所で聞ける得難いチャンスです。当日はぜひご参加いただき、盛り上げていただければと思います。懇親会もごぞいます。多くの先生方と大阪成蹊大学にてお目にかかることを楽しみにしています。

(3) 支部運営要領を改訂しました。

支部運営要領というのをご存じでしょうか？これは、言ってみれば支部の憲法のようなもので、支部の組織や体制などを規定した文書です。JACETが法人化した2013年ごろ作られたものですが、関西支部は、伝統的に、他支部と異なる独特の運営スタイルを取っているため、文書と実態に乖離が残っていました。

関西支部の運営システムが他と異なっているのは大きく分けて2点で、1点目は研究企画委員の位置づけです。他支部では「研究企画委員」は支部役員と同義の場合も多いようですが、関西支部では「研究企画委員」を大会の企画運営を専任で担う特別の職として切り分けており、「研究企画委員会」にオートノミーを付与しています。大会企画は、まずは研究企画委員会が議論して作り、それを全体役員会で承認するとい

う流れになっています。2 点目は任期の扱いです。他支部では重任制限を設けていない場合が多いかと思いますが、関西支部は、昔から非常に厳しい任期規定を設けています。幹事は 2 年まで、研究企画委員は最長 4 年までで、任期が来ると自動離任となります。現代のように、少子化で研究者の数も先細りしつつある現状で、これにはメリットとデメリットの両面が存在しますが、関西支部は、伝統的に、「組織は人が流動することで強化される」という強い信念をもっていたように感じます。20 年ほど前、私が新米の幹事をしていたときにも、先輩の役員の方から、繰り返し、このことを指導された記憶があります。振り返ってみれば、この 20 年間、本当に多くの会員の方が、一定期間、役員として奉職し、支部運営に参画してくださいました。もし重任が認められていれば、これほど多くの会員が運営の側に入るということにはならなかった可能性もあります。

今回の支部運営要領改訂は、現状と文言の齟齬をとりあえず解消するという、いわば、緊急避難的なもので、本格的な将来の支部運営の在り方の検討にまでは踏み込んでいませんが、今後、関西の良き伝統を生かしつつ、同時に、現状によりふさわしい形となるよう、運営の在り方についても、会員の皆様のお声をいただきながら、考えていきたいと思っています。

ということで、支部会員の皆様には、これから、支部活動に積極的にご参加を賜りまして、みんなで一緒に関西支部を盛り上げていくことができればと存じます。執行部へのご意見、ご要望などがあればどんなことでもお寄せくださいませ。

■2025 年度関西支部大会のお知らせ■

2025 年度の支部大会は、既にご案内しているとおり 2026 年 3 月 7 日（土）に大阪成蹊大学駅前キャンパスで開催いたします。本年度は大変多くの発表応募をいただきました。誠に有難うございます。大会テーマの下で多岐にわたる発表に触れ、また参加者間の交流も楽しんでいただける有意義な機会になりそうです。多くの皆様と大会を盛り上げたいと心より祈念しております。なお、一般発表の募集は既に終了しています。ご了承ください。

- 日時：2026 年 3 月 7 日（土）
- 場所（完全対面）：大阪成蹊大学駅前キャンパス
- 大会テーマ：AI 時代に求められる英語力：実践と評価

基調講演 1：安藤昇先生（青山学院大学、株式会社バザール）

題目：「最新の生成 AI ってどのようなことができる

の!？」

概要：近年、生成 AI（Generative AI）はテキスト、（要旨）画像、音声、動画といった多様なメディアを自在に生み出す技術として急速に進化しています。本講演では、ChatGPT や Gemini、Claude、Suno などの代表的 AI の最新動向を紹介し、教育現場や研究活動における活用事例を具体的に示します。また、AI との共創によって新たに生まれる学びのスタイルや創造的表現の可能性についても考察します。AI を「使う」から「共に考える」時代への変化を、実演を交えてわかりやすく解説します。

基調講演 2：日野信行先生（大阪大学名誉教授、追手門学院大学教授）

Title: Teaching EIL in an age of multicultural challenges

Overview: In many parts of the world today, multicultural diversity is being challenged by increasing social pressures. One possible remedy to this latest problem is the teaching of EIL (English as an International Language), a concept highlighted in the recent publication of *The Routledge Handbook of Teaching English as an International Language* (2025). In this talk, partly based on my four decades of efforts to teach EIL in Japan, I will discuss theories and practices in EIL education, aimed at helping students to embrace multicultural inclusivity as well as to express themselves in global communication. Relevant concepts, particularly ELF (English as a Lingua Franca), WE (World Englishes), and GE (Global Englishes), will be incorporated toward an integrated paradigm of EIL studies. Finally, I will briefly address the impact of AI on EIL as an immediate concern for the field.

その他プログラムの詳細は後日関西支部 Web ページに掲載いたします。また、大会および懇親会への参加申し込みは後日あらためて関西支部 Web ページに掲載いたします。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

■Announcement for the 2025 Kansai Chapter Conference■

As previously announced, the 2025 Kansai Chapter Conference will be held on Saturday, March 7, 2026, at the Osaka Seikei University Ekimae Campus.

We are delighted to have received an exceptionally large number of presentation proposals this year. We sincerely appreciate your enthusiastic participation.

Under the conference theme, the program promises to offer a wide range of presentations and to serve as a valuable opportunity for participants to engage in intellectual exchange. We truly hope that many of you will

join us in making the conference a lively and meaningful event.

Please note that the call for presentations has already closed. Thank you for your understanding.

- Date: Saturday, March 7, 2026
- Venue (In-person only): Osaka Seikei University, Ekimae Campus
- Conference Theme: English Competence in the AI Age – Aspects of Practice and Evaluation

Keynote Speech 1: Noboru Ando (Aoyama Gakuin University; Bazaar inc.)

Title: “What Can the Latest Generative AI Do!?”

Overview: In recent years, generative AI has rapidly evolved into a technology capable of freely creating a wide range of media, including text, images, audio, and video. This lecture will introduce the latest developments of major AI models such as ChatGPT, Gemini, Claude, and Suno, and present concrete examples of how they are being utilized in educational settings and research activities. It will also explore new learning styles and creative possibilities that emerge through co-creation with AI. The session will offer an easy-to-understand explanation—along with live demonstrations—of the shift from simply *using* AI to *thinking together* with AI.

Keynote Speech 2: Nobuyuki Hino (Professor Emeritus, The University of Osaka; Professor, Otemon Gakuin University)

Title: Teaching EIL in an age of multicultural challenges (More information is written on the previous page.)

Further details of the program will be posted on the Kansai Chapter website at a later date. Additionally, Information on how to register for the conference and the reception will be posted later on the Kansai Chapter’s website. We sincerely look forward to the participation of many members.

■ 2025 年度支部総会開催の報告 ■

2025 年度 JACET 関西支部総会が 2025 年 11 月 15 日にオンラインで開催されました。支部運営要領の改正、支部長選出規定の改正、2026 年度支部役員就任候補者の承認、2026 年度の行事予定と予算について審議され承認されました。

The JACET Kansai Chapter General Assembly for 2025 was held online on November 15, 2025. The revisions

to the operational guidelines, the amendments to the chair election rules, the approval of the candidates for executive committee members for 2026, and the schedule of events and budget for 2026 were approved.

■ 2025 年度第 2 回支部講演会の報告 ■

2025 年度第 2 回支部講演会（教材開発研究会による講演）が、2025 年 10 月 18 日（土）にオンラインで開催されました。投野由紀夫教授（東京外国語大学大学院）をお迎えし、英語教材開発の歩みと研究に基づく理念についてご講演いただきました。語彙習得、学習辞典、学習者コーパス、CEFR など多様な研究に触れられる貴重な機会となり、約 60 名が参加しました。オンラインでの開催ではありましたが、多くの皆さまにご参加いただき、実りある講演会となりましたことをご報告いたします。

日時：2025 年 10 月 18 日（土）15:20～17:00

会場：オンライン（ZOOM）

演題：「私はどのように英語教材を作ってきたか」
Corpus and CEFR approaches toward English teaching materials development.

講師：投野由紀夫（東京外国語大学大学院教授）

The Kansai Chapter Second Lecture Meeting of the 2025 academic year by Material Design and Development SIG was held on Saturday, October 18th. Dr. Yukio Tono from the Graduate School of Tokyo University of Foreign Studies delivered a lecture on the development of English teaching materials and the research-based principles underlying his work. The event provided a valuable opportunity to learn about a wide range of research areas, including vocabulary acquisition, learner’s dictionaries, learner corpora, and the CEFR.

Approximately 60 participants attended. Despite being held online, the lecture was highly fruitful thanks to the active participation of many attendees.

Date: October 18th (Sat), 2025, 15:20～17:00

Venue: Online (ZOOM)

Title: 「私はどのように英語教材を作ってきたか」
Corpus and CEFR approaches toward English teaching materials development.

Speakers: Yukio Tono (Professor, Institute of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies)

■ 2025 年度第 3 回支部講演会のお知らせ ■

2025年度第3回支部講演会（リスニング研究会による講演）が、2026年2月21日（土）にオンラインにて

開催されます。なお、詳細は追ってJACET関西ホームページに掲載致します。奮ってご参加下さい。

日時：2026年2月21日（土）15:20～17:00

会場：オンライン（ZOOM）

The Kansai Chapter Third Lecture Meeting of the 2025 academic year organized by SIG on “Listening” will be held online on Saturday, February 21st, 2026. Further details will be posted on the JACET Kansai Homepage at a later date. We look forward to your participation.

Date: February 21 (Sat), 2026, 15:20～17:00

Venue: Online (ZOOM)

affiliation, e-mail address, telephone numbers, and other information to **the JACET Main Office (jacet@zb3.so-net.ne.jp)**.

■ 事務局より ■

Messages from the Kansai Chapter Office

今年度のJACET関西支部の行事も残すところ、第3回支部講演会と支部大会のみとなりました。本年度の支部大会は、大阪成蹊大学駅前キャンパスにて対面形式での開催です。「AI時代に求められる英語力：実践と評価」をテーマに、基調講演や研究発表、実践報告を始め、新たにワークショップ、コロキウムが加えられ、多彩な内容で行われる予定です。また、学生発表賞が新設されました。コロナ後初開催となる懇親会も含め、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

■ 会員情報の変更 ■

支部事務局からのご連絡のメールが、宛先不明等で数多く戻って参ります。今一度、JACET本部事務局にご登録のメールアドレスをご確認ください。

————・————・————・————
紀要などのお届けに支障が生じるおそれがございますので、ご所属先や郵送先住所情報についても、再度ご確認ください。

会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号など）が変わられた方は、**必ず本部事務局 (jacet@zb3.so-net.ne.jp) まで**ご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・修正・管理は行っておりません。

Please immediately report any changes in your address,